



苅田町立図書館 新着推し本紹介のコーナー（7月号）



『子どもは「親の心配」をランドセルに入れて登校しています』（桑原 朱美／著）

WAVE出版 379.9 / ㍴ /

<https://ili>

『くう、ねる、うごく!体メンテ』

(崎田 ミナ／著)

マガジンハウス 498.3 / ㍴ /

<https://ili>

著者は25年間保健室の先生として多くの子どもを見てきました。親が意識的あるいは無意識にしまう習慣を変えることで、子どもが劇的に変わるといふ事例を多数挙げています。日々、親は子どものために良かれと思って頑張っていますが、なんとなく報われない思いを感じてしまうのは一所懸命だからこそでしょう。この本を読むと、そのような思いの中にある迷いや葛藤、間違いに気づかされます。子育てに関する本ですが、実は「大人自身の生きづらさを解消し、自分らしく生きる」ことの大切さを教えてくれる、全世代の大人に向けた内容です。

最近、疲れやすい…でもなにか始めるのは億劫…。とりえず健康になりそうな本を読んでみるけど実践がなあ…ってモヤモヤしちゃう。

そんな、ずぼらな私が出会ったこの本。イラストでわかりやすく手軽な運動（っていうほど運動じゃないかも🐼）おやつを選び方など手軽に取り組みそうと思えるものが書かれています。全部やってみる！じゃなく、出来そうなことだけでもってという気軽な気持ちになれる一冊です。

『マンガでわかる楽しい草取り』

(西尾 剛／著)

誠文堂新光社 615.6 / ㍴ /

<https://ili>

『いつでも君のそばにいる』

(リト@葉っぱ切り絵／著)

講談社 726.9 / ㍴ /

<https://ili>

夏の暑い時期、草取りは苦行と化す…。
そういう気持ちでいるばかりに、庭が草だらけで荒地のよう。見るだけで心が荒んで途方に暮れること、ありますよね。そんな気持ちを察してか、払拭してくれるお助け本がこれ！その名も「楽しい草取り」。光明がさしました。

大事なことは雑草を知り、効率よく抜くか、です。まさに「彼を知り、己を知れば、百戦殆うからず」です。いざ、雑草マイスターの道へ！

まず表紙を見た瞬間に引き込まれます。信じられないぐらいに細かい。表紙には青い空を背景に撮影された1枚の葉っぱの切り絵。ジンベエザメや魚、またそれを見上げる人たちが切り絵で表現されています。作品一つ一つにテーマと短い物語が添えられており、より一層切り絵のせかいを楽しむことができます。

本の最後では作品に使われている葉っぱやドライリーフの作り方などが紹介されています。どの作品も素敵ですが、個人的に「ゆめのわたがし屋さん」と「はじめてのお客さんだ！」が可愛くてお気に入りです。

『アニメディスクガイド80's』

(MOBSPROOF編集部／編)

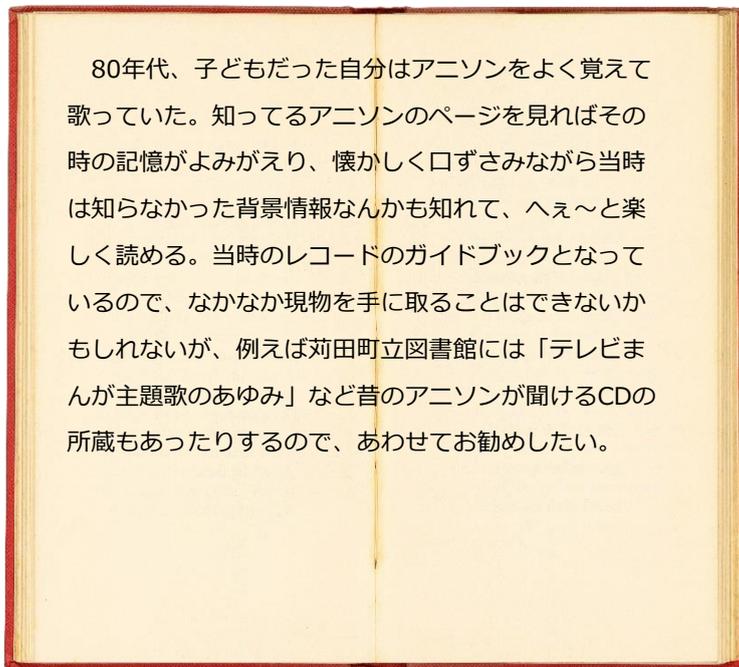
河出書房新社 778.7 /ア /

『スーパー戦隊』

(東映株式会社／監修)

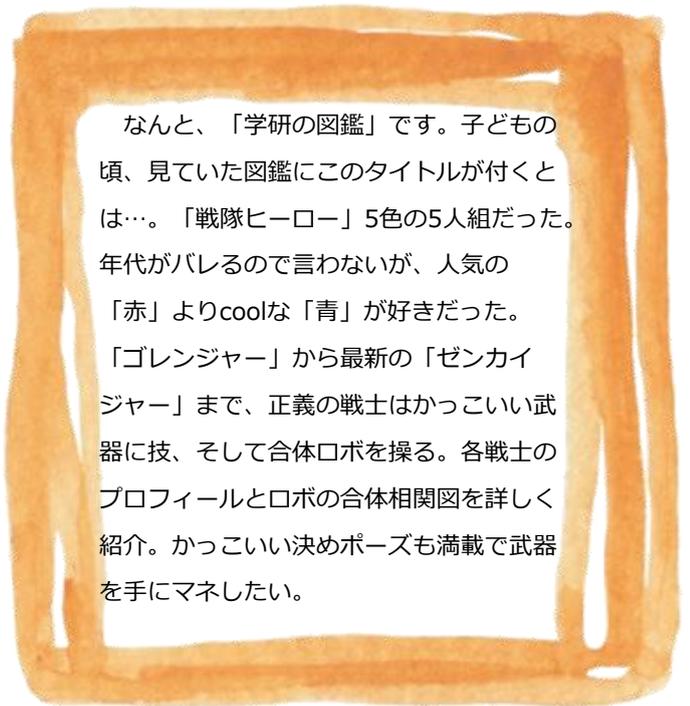
学研プラス 778.8 /ス /

<https://ili>



80年代、子どもだった自分はアニソンをよく覚えて歌っていた。知ってるアニソンのページを見ればその時の記憶がよみがえり、懐かしく口ずさみながら当時は知らなかった背景情報なんかも知れて、へえ〜と楽しく読める。当時のレコードのガイドブックとなっているので、なかなか現物を手に取ることはできないかもしれないが、例えば苅田町立図書館には「テレビまんが主題歌のあゆみ」など昔のアニソンが聞けるCDの所蔵もあつたりするので、あわせてお勧めしたい。

<https://ili>



なんと、「学研の図鑑」です。子どもの頃、見ていた図鑑にこのタイトルが付くとは…。「戦隊ヒーロー」5色の5人組だった。年代がバレるので言わないが、人気の「赤」よりcoolな「青」が好きだった。「ゴレンジャー」から最新の「ゼンカイジャー」まで、正義の戦士はカッコいい武器に技、そして合体ロボを操る。各戦士のプロフィールとロボの合体相関図を詳しく紹介。カッコいい決めポーズも満載で武器を手にマネしたい。

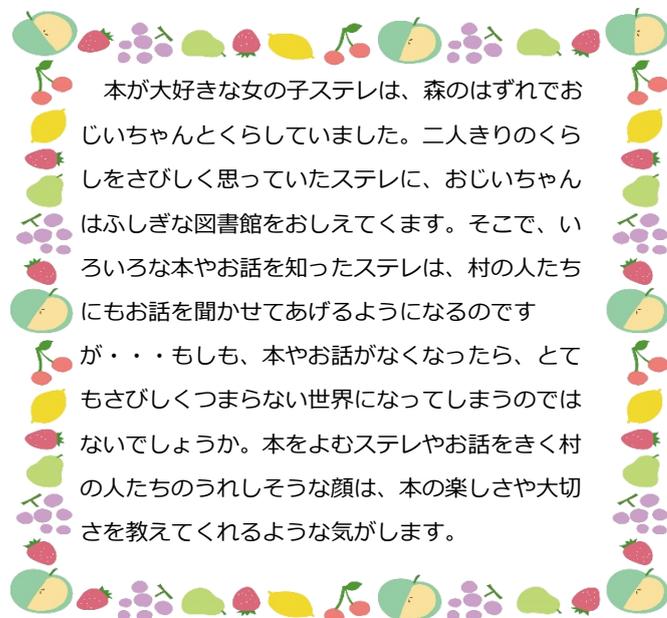
『お話のたきぎをあつめる人』

(ローレンティン妃／作 他)

徳間書店 949 /0



<https://ili>



本が大好きな女の子ステレは、森のはずれでおじいちゃんとくらしていました。二人きりのくらしをさびしく思っていたステレに、おじいちゃんはふしぎな図書館をおしえてくれます。そこで、いろいろな本やお話を知ったステレは、村の人たちにもお話を聞かせてあげるようになるのです。が・・・もしも、本やお話がなくなったら、とてもさびしくつまらない世界になってしまうのではないのでしょうか。本をよむステレやお話をきく村の人たちのうれしそうな顔は、本の楽しさや大切さを教えてくれるような気がします。

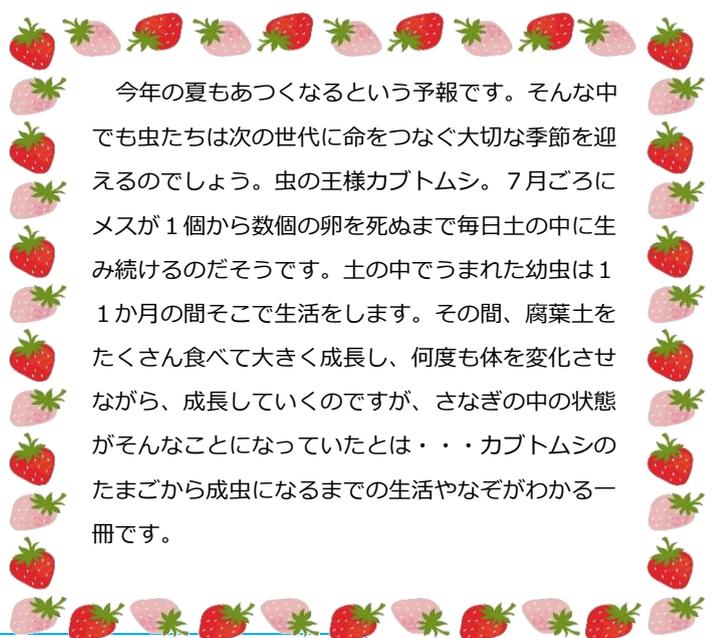
『カブトムシの音がきこえる』

(小島 渉／文 廣野 研一／絵)

福音館書店 486 /1 /



<https://ili>



今年の夏もあつくなるという予報です。そんな中でも虫たちは次の世代に命をつなぐ大切な季節を迎えるでしょう。虫の王様カブトムシ。7月ごろにメスが1個から数個の卵を死ぬまで毎日土の中に生み続けるのだそうです。土の中で生まれた幼虫は11か月の間そこで生活をします。その間、腐葉土をたくさん食べて大きく成長し、何度も体を変化させながら、成長していくのですが、さなぎの中の状態がそんなことになっていたとは・・・カブトムシのたまごから成虫になるまでの生活やなぞがわかる一冊です。

問い合わせ先

苅田町立図書館 ☎093-436-0946

開館時間：9：30～17：30 (木・金は19：00まで。本館のみ)

ホームページから蔵書検索もできます



(2021.7.6発行)